

## 第 42 回電子情報化委員会 議事録 (案)

日時：2010 年 5 月 17 日 (月) 15:30～18:30

場所：JCI 会議室 12F

出席者：中村委員長、三木幹事、浅本、甲斐、椋山、舌間、田嶋、吉岡の各委員  
(事務局) 井上、戸口

### 資料

42-0：電子情報化委員会 (第 42 回) 議事次第

42-1：第 41 回電子情報化委員会議事録 (案)

42-2：メールニュース登録者数の推移 (平成 22 年 5 月 1 日)

42-3-1：アクションプラン、電子情報化アクションプラン 2010 案

42-3-2：JSCE2010 の主な重点目標

42-3-3：電子情報化委員会 平成 21 年度事業報告、平成 22 年度事業計画

42-4：会員専用ホームページにおけるコンクリート年次論文集 会誌コンクリート工学、および  
コンクリート工学論文集の会員向け公開について

42-5：新規研究委員会ホームページについて

42-6：リンク集

### 議事

0. 今回、初めて出席いただいた前橋工科大学の舌間先生からご挨拶いただいた。

1. 前回委員会議事録 (案) の確認 (三木幹事、資料 42-1)

- ・ 第 41 回議事録 (案) の内容を確認し、承認した。

2. メールニュース登録者について (事務局、資料 42-2)

- ・ 現状の登録者数 2973 名 (2010 年 5 月現在)。さらに診断士講習会 250 名が追加される。
- ・ 今後、配信登録案内の配布回収が可能な講習会等は以下の通り。これまで同様に配布する。  
7 月年次大会、7 月技士研修会、9 月診断士研修会、10 月技術講習会、6 月以降研究委員会  
講習会・シンポジウム
- ・ これまでの案内配布の取り組みにより、多くの非会員の方々に登録いただいている。一方、  
会員の登録者数はそれより少ないのが現状である。今後は、特に会員の登録者数を増やす  
ための方策を検討する。(担当：高橋委員)
- ・ 年次大会・生コンセミナー参加申込書のページにメールニュース登録についての案内を掲  
載しているが、登録ページへのリンクのみである。メールニュースのメリット (会告をま  
とめた定期メールに加え、講習会、シンポジウムなどのリマインダメールなど) を示す案  
内文を掲載する。(担当：高橋委員)
- ・ メールニュース登録者数を増やすための戦略については今後の継続課題とする。コンテン  
ツ拡充は有用な方策である。

3. アクションプラン 2010 案 (中村委員長、三木幹事、資料 42-3-1)

- ・ 中村委員長より資料 42-3-1 について説明された。アクションプランの目的は、①社会との

コミュニケーション、②コンクリート技術の革新・蓄積・継承、③コンクリートの役割の社会的知名度の向上、④コンクリート技術者の地位と社会的認知度の向上、⑤国際展開、などが考えられる。これら以外の目的があれば、適宜追加してもらいたい。

- ・ 具体的なアクションプランとして、①メールニュース、②ホームページ、③研究活動の発信、④デジタルアーカイブ化、⑤会員専用ページ、⑥一般向け情報、などに区分される。
- ・ これまでの役割分担については、おおよそそれらの作業を終えたため、今後は各担当におけるアクションプラン案（短期、中期、長期）の具体項目を提案していく。役割分担は以下の通り。

メールニュース（高橋委員）、会誌（兼松委員）、コンクリート工学論文集（椋山委員）、年次論文集（田所委員）、研究委員会 HP（浅本委員）、JCI HP 特に企業側の視点（吉岡委員）、JCI HP 一般向けコンテンツ（舌間委員）、年次大会（甲斐委員）、委員会報告書（田嶋委員）、各種電子システム（八十島委員）、デジタルアーカイブ化（三木幹事）

- ・ アクションプランには、実現までに比較的時間を要すると思われる項目を含んでもよい。例えば、テレビ会議などの電子情報コミュニケーションシステムの活用、講習会やシンポジウムの web 配信、委員会のテレビ会議システムの活用、web を用いた自己学習などが挙げられた。長期のアクションプランについては、各委員が役割分担によらず提案する。
- ・ 主任技士には、コンクリート工学に関する最新情報を得ることを求めている。その際に、会誌などがデジタルアーカイブ化されていれば、検索を活用することで容易に情報を収集することができる。会員、非会員ともにニーズが多い分野への対応について継続審議する。

#### 4. 会員専用ページにおける公開について（三木幹事、資料 42-4）

資料 42-4 に基づき原案が示された。行われた議論は以下の通り。

##### 4.1 コンクリート年次論文集（提案先：年次大会委員会）

- ・ 原案では、本委員会からの提案に基づき年次大会委員会がどのようなアクションをとればよいのかが不明瞭である。
- ・ 公開方法において、会員向け公開時期の 1 年は要検討である。一方、5 年経過した年次論文集は既に公開されているため、一般向けは 5 年後とする。
- ・ 年次大会委員会が 8 月開催されるため、それに向けて資料 42-4 を元に、提案文を三木が作成する。その際に、会員向け公開のメリットを示し、検討項目を具体的に示す。

##### 4.2 コンクリート工学論文集（提案先：図書編集委員会）

- ・ いずれも図書編集委員会への提案であるが、会誌とコンクリート工学論文集では内容、読者が大きく異なるため、公開方法も異なることが考えられる。したがって、それぞれ分けて別々に提案していく。なお、図書編集委員会委員長は、会誌編集委員会委員長（現在は千葉大学和泉先生）が兼任している。
- ・ コンクリート工学論文集の電子化については、編集委員会においては承認済みである。
- ・ 会員専用ページで公開することのメリットとして、不定期の発行が可能となる。また、申し込み時期によっては公開までの日数が短くなることも考えられる。現在は冊子版が年 3 回発行されている。
- ・ 不定期発行の場合、その都度論文集の目次をメールニュースで送付することで、更新を広く案内できる。メールニュース側のメリットとしては、論文集とのリンクを設けることで、

配信件数の増加のための有用なコンテンツとなる。

- ・ 将来的なメリットとして、冊子版の廃止による経費削減が可能である。
- ・ CiNii、J-Stage など、既存のデータベースを活用することで、題目、キーワード、著者等による論文検索も同時に可能となる。これに対し、会員専用ページを用いた公開では、JCI 独自のデジタルアーカイブが可能である。
- ・ 図書編集委員会は議題があがった際に開催されるため、資料 42-4 を元に提案文を三木が作成する。その際に、会員向け公開のメリットを示し、検討項目を具体的に示す。

#### 4.3 会誌コンクリート工学（提案先：図書編集委員会）

- ・ 会誌は3年前より pdf ファイルがあり、電子版を事務局で保存しており、デジタルアーカイブ化できている。
- ・ 冊子版と同じ内容を全て電子化することで、資料を残すという意味でデジタルアーカイブできている。一方、会誌の内容によっては、工事報告のような即時性のある記事、特集号のようなニーズがある記事の他、一般向けの記事があり、それぞれの活用方法は異なるため、今後、その活用方法については議論していく必要がある。
- ・ 年次大会の大会報告は一般向けへのコンクリート関連活動の紹介であり、また非会員向けには入会の動機付けのために非常によいアピールである。
- ・ デジタルアーカイブ化した会誌の活用方法については、継続審議課題とする。そのため、今回、図書編集委員会への会員専用ページでの公開についての提案はしない。

#### 5. 研究委員会ホームページ（浅本委員、資料 42-5）

- ・ 浅本委員より、研究委員会において、新規研究委員会のホームページを作成、更新するための方法を説明したことが報告された。
- ・ 研究委員会から、閲覧数を教えてもらいたいとの意見があった。アクセス数については事務局にて確認できる。ただし、カウンターの設置については、事務局で確認する。  
→ 研究専門委員会 HP にアクセスカウンターを設置することについて、ホスティング会社に確認したところ、CGI が使えないためサーバーの仕様によりまして不可とのこと。
- ・ 次回以降、本委員会で各研究委員会の HP の更新状況を報告事項とする。
- ・ 年次大会の特別講演、安藤先生の講演について、メールニュースを出したいとの依頼があった。ポスター掲載ページのリンクをメールニュースで配信することで対応する。

#### 6. JCI HP リンク集（田嶋委員、資料 42-6）

- ・ 田嶋委員より、大学研究室のリンク集についての改良点が説明された。
- ・ ページを維持管理することが課題である。リンク先の URL の変更などによるリンク切れはソフトを用いれば容易に確認できる。一方、教員異動に伴う変更などの情報を収集する必要がある。変更があった場合連絡をしてもらうよう案内すると共に、年1回（4月～5月など）、異動が多い時期に本委員会にて確認する。
- ・ 関連大学・研究室のページを別ウィンドで開くように設定を変更した後、事務局へ送付し、HP に更新する。

#### 7. その他

- ・ 次回日程は、8月27日（金）15:30 からとする。

以上